

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 伊藤哲郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

附属動物病院、小動物臨床研究室に所属し、伴侶動物の内科および腫瘍内科分野の教育・研究活動を行っている。学部学生に対する教育活動は、臨床獣医学教育分野の伴侶動物の内分泌代謝性疾患、リンパ系腫瘍、口腔疾患を担当し、講義で疾患の全体像を伝え、臨床実習では実際の臨床例を用いて具体的な診断アプローチ、治療法を経験、習得させている。

授業外では動物病院内科の診療科長として内科診療を統括し、動物病院に所属する研修獣医師に対する卒後内科研修指導を行っている。日本獣医がん学会、獣医腫瘍科認定医Ⅰ種に認定されており、学会の認定医認定委員会に所属して認定医講習会、認定医試験を通じて卒後専門教育を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
基礎・小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4	130
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	130
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5	130
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	130
総合獣医学	獣医学科	必修	6	130
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	30
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	3
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
動物外科看護学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	70

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

実際の臨床例に対応する上で重要なことは、問題となっている臨床徴候を適切に把握し、解決のための治療方針を計画できることである。

人間と同様に伴侶動物の寿命も延長し、病院を受診する動物も高齢化している。高齢動物は臨床徴候の原因となっている生体機能・構造の異常以外にも、様々な加齢性変化が含まれた検査結果を示す。様々な臨床徴候について、実際の症例を通じて背景に存在する病態生理学を理解することを積み重ね、問題となる臨床徴候の原因確認、重症度把握のために臨床検査を活用する意識を学生に植え付けてゆきたい。

治療方針に関しても、疾患に対する最善の治療方針を各症例が持つ条件を加味して最適化することを実際の症例での経験を通じて習得させてゆきたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

上記の理念を実現するために、学生には自分が対面している症例から得た情報を言語化して、他者と共有するトレーニングを繰り返し行わせる。症例に発生している問題・臨床徴候を適切な獣医学用語に変換するトレーニングは、症候学における用語の真の意味、用語の背景に存在する病態生理学の理解につながる。これを教員、学生同士と共有することを繰り返し、適切に使いこなせる症候学獣医学用語の語彙力を増強する。

臨床検査の選択、結果の解釈についても言語化して、他者と共有するトレーニングを繰り返すことで、検査により得られた数値、画像の変化に対する理論的背景を習得する。

治療方針の最適化についても、自ら立案した方針の言語化および他者とのディスカッションを通じて、治療方針を最適化する上で配慮すべきポイントを習得できると考える。

これらの“症例情報の言語化”が学生に有益に働くための準備として、座学での講義段階で各種臨床徴候について丁寧な背景説明を繰り返す。また臨床実習開始直前の座学での事前実習では、模擬症例を用いたグループディスカッション、全体へのプレゼンテーションの場を設け、情報共有の有用性を理解させる。また与えられた模擬症例と関連する症例報告に触れさせ、同一疾患の中に存在する様々なバリエーションを理解しておくことの重要性に気づかせるよう準備する。

臨床実習中は個々の学生にはショートレクチャーで対応し、診療後の症例検討会において各自の対面した症例情報を総括してプレゼンテーションさせ、ディスカッションする機会を設ける。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医学科5年次の獣医総合臨床実習において、動物病院受診症例の実際のデータから作成した模擬症例を用いて犬、猫の内科疾患に関する診断、治療方針決定に関するグループワーク、プレゼンテーションを行っている。獣医学科5年次の小動物臨床実習および獣医学科6年次の小動物病院実習において、診察終了後に当日の実習で診療した症例に関する症例検討会を実施し、実習学生に症例プレゼンテーションを担当させて、ディスカッションを行っている。

(2) ICTの教育活用

有

獣医学科5年次の獣医総合臨床実習において、教員、研修医がウェアラブル端末装着下で行った正しい手順の臨床手技記録を用いて学生の事前実習を行っている。獣医学科5年次の獣医総合臨床実習、小動物臨床実習および獣医学科6年次の小動物病院実習において、電子カルテシステムに蓄積された犬、猫の代表的な内科疾患に関する典型例の症例情報（臨床徴候の動画、検査結果データ、顕微鏡写真・X線検査・超音波検査など画像）を学生に提示することで診断、治療方法に関する理解を深められるようにしている。蓄積された検査記録の統計分析を用いて、新規治療法の理論的根拠を提供している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業：疾患の存在を意識するきっかけとなる“臨床徴候”の理解を深めることに重点をおき、テキストには十分に説明されていない徴候が生じる背景を伝えるように準備している。

実習：アクティブラーニング、ICTを活用し、学生のアウトプット機会増加につとめている。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業：レポート、定期試験による評価を行っている。

実習：グループワーク成果のプレゼンテーション、各自が対面した症例のプレゼンテーション・ディスカッションを行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業時間で補完できない内容について補助資料を配布している。

模擬症例を用いたグループワークでは関連する症例報告を紹介している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

主にメールで対応している。

実習中はショートレクチャーにより付加情報を与え、自学自習を促すようにしている。

(5) 双方向授業への工夫

B

授業：過去に学生から講義後に質問された事項をまとめて、講義内で解説している。

実習：双方向で対話する機会が十分に確保されている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去10年間の出題傾向を分析した。頻出分野について、通常の講義で割愛した詳細情報（実際の臨床例のデータ、画像など）を説明した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

講義内で扱う情報量が多すぎたため、コアカリキュラムを精査して扱う情報量を絞り込み、講義をゆっくり進行させるように変更した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業評価において改善を求める少数の評価は消失した。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

講義内から割愛した中でも重要と考えられる項目について、補助資料を作成する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義、実習の冒頭で、その時間内に必ず習得しなければならないことを明示する。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生からの質問が洗練された的確な内容に変化した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

著作権法及び授業目的公衆送信補償金制度（2025/9/24）、3つの方針に基づくカリキュラム・マネジメントの重要性（2025/6/16）、チーム医療を支える視点～医科・歯科現場における連携の実践～（2025/7/3）

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床実習の質を向上させるために、内科診療を担当する複数の教員間で教育理念について再評価を行う（2026年度）。臨床実習の質を向上させるために、学生の臨床実習を依頼している学外機関と教育理念、方法について再評価を行う（2026年度）。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

獣医学科4年次 基礎・小動物獣医総合臨床 講義資料：内分泌代謝病学、獣医学科5年次 小動物獣医総合臨床：リンパ系腫瘍、化学療法、内分泌代謝病学、口腔疾患 講義資料、獣医学科5年次 小動物臨床実習：臨床推論 演習資料